

平成30年度

# 事業計画書

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

公益財団法人 才能開発教育研究財団

## **平成 30 年度事業計画書**

### (環境認識)

平成 29 年度は、計画を予定通りに遂行している。三つの公益事業(教育工学・教師養成・全国児童才能開発コンテスト)に係わっていただいている先生方、法人、団体等との活動を積極的に行い、公益法人としての当財団への期待に応えるよう努めている。

平成 29 年度は、不安な社会・経済状況が懸念される中、講演研修事業(教育工学)で行っている教員免許状更新講習のeラーニング講習が順調に推移することができた。また、モンテッソーリ教育事業(教師養成)は 30 年度からの新会員管理システムの導入を図り、新システムでの申し込みを開始した。講座の充実策としてeラーニングと動画を活用し受講生のサポート体制の強化を行うとともに、新たな受講領域として、国際講師養成講座と入門講座での保護者を含めたモンテッソーリ教育の学びの場を提供することで、より一層の広がりを目指す。

全事業の社会貢献活動について、告知活動の工夫に尽力し財団運営基盤の構築を目指す。

### (基本方針)

以上の状況を踏まえ、30 年度は次の 3 点を事業計画策定における基本方針とした。

- (1) 教員免許状更新講習の e ラーニング講習の充実と受講者のさらなる拡大。
- (2) モンテッソーリ教育会員管理システムの導入。  
受講通信の充実、新設講座(国際・入門講座)の開設。
- (3) 公益法人として安定した資産活用、組織の整備、協力者との連携強化を行う。

## **I. 講演研修事業(公1)**

### (主な目標)

- ① 教員免許状更新講習は、引き続き e ラーニング講習の運用体制を整備し、対面講習と併せて事業拡大に向けた活動を行う。
- ② IMETS フォーラムについては、一般参加者の増員を目指し、都内近郊の教育委員会への広報活動を強化していくとともに、Web サイトを活用した告知・申込方法の改善を図る。

#### (1) IMETS フォーラム

幼・小中学校教員等の教育関係者を対象とした全国規模の講演研修会「第 45 回教育工学研修中央セミナー:IMETS(アイメッツ)フォーラム 2018」を 7 月 26 日・27 日に開催する。これは、文部科学省ほか関係教育団体の後援の下、教員の資質向上に資する研修を実施するものである。平成 30 年度は、「次期学習指導要領がめざす授業のデザイン・評価と ICT 活用の工夫」を研修テーマとする。ICT 活用授業の実践・プログラミング教育・情報モラル教育等、最新の教育事情を踏まえたワークショップ型研修を組み込み、より実践的・主体的な学びとなるよう運営の工夫を行う。

## (2) テーマ別研修・セミナー

これまでの教員向け研修会の企画運営ノウハウや第一線で活躍する講師陣等の人材を活かして、「教育委員会による教員研修」の運営支援を行っている。平成 30 年度も都内 1 自治体(大田区)の初任者研修を年間 4 回実施する。さらに IMETS フォーラムを教員研修として、都内 2 自治体(大田区、港区)に対して提供する。(両区とも主に主幹教諭が受講)

## (3) 教員免許状更新講習

国による教員の資質向上施策である教員免許状更新講習について、当財団は平成 21 年度から文部科学省の認定を受けて実施している。

### <対面講習>

平成 30 年度、『対面講習』は必修講習及び選択必修講習を 8・12 月に大阪(関西大学共催)で、6・10・11・12 月に東京で開設する。選択講習は 7 月の IMETS フォーラムに合わせて東京で開設し、6・10・11・12 月に東京、8 月に大阪(関西大学共催)で開設する。その他にも開設地、会場を検討し、必修講習・選択必修講習を増設して、昨年度以上の受講者数を受け入れる予定である。

### <e ラーニング講習>

平成 30 年度、『e ラーニング講習』は 4 月 2 日より必修講習 1 講習、選択必修講習 2 講習、選択講習 13 講習を開設予定である。新たに選択講習 3 講習(「教師に求められる発達障害の理解と支援」等)を加えた全 16 講習を開設し、教員の様々な学びのニーズに対応する。試験もインターネット上で完結できる Web テストへ完全移行し、受講生の利便性を向上する。受講者数の確保に関しては、受講者へのきめ細やかな受講支援を行うと共に、全国の小中学校、教育委員会や教員研修センターにリーフレットを配付し、広報活動の強化を行う。また、Web 広告(リスティング)を有効に活用することで、サイトへの訪問機会を促進し、申込数の増加へと繋げていく。

## (4) 教育工学研究協議会

全国の小中学校教員をはじめとした教育関係者による研究会組織が「教育工学研究協議会」である。教育に関連する最新のテーマを策定し、教員の資質向上のための方策について、情報収集や共同研究とその発表等に努めている。教育工学的な観点を持って実施される研修会をより充実させるための研究、運営組織として、更なる体制の整備と活動方針の策定、明確化を図る。

## (5) 他研究団体等との連携

全国教育研究所連盟(全教連)や関東地区教育研究所連盟(関教連)、民間教育研究所連盟(民教連)、日本教育情報化振興会(JAPET&CEC)、日本教育工学協会(JAET)等との連携により、教育の諸問題についての情報交換を継続し、IMETS フォーラムや教員向け研修会の内容充実につなげる。

## Ⅱ. 養成研修事業(公2)

(主な目標)

- ① モンテッソーリ 教師養成事業(インターナショナル・通信教育)、実践教務事業、実践研修事業各事業の定員を確保する。
- ② 新 Web システム(HP、通信、レポート添削、受講生管理)により、教師養成の履修環境をさらに Web 活用型・学び易いものになるように運用・調整する。
- ③ 講師人材の採用・育成を積極的に手がけ、養成研修事業の継続を強固なものにする。

### (1) 教師養成事業 (教師養成センター)

インターナショナルコース、通信教育講座(3歳～6歳コース、0歳～3歳コース)受講生を確保。モンテッソーリ教育を手軽に学びたい層へ向け、eラーニング入門講座(一般向け)の開講。

◆目標：新規「インターナショナル コース」	10名
「3～6歳 コース」	100名(1年次)
「0～3歳 コース」	75名

新規「eラーニング入門講座」のべ 1000講座

平成 30 年度 新コース「インターナショナル」の実施。実践講師養成水準の学びが可能な、国際基準認定証取得の可能なコース。既存通信教育講座とともに、新 Web システム運用により、受講生向けの eラーニング機能(動画予習復習、レポート課題提出)など、履修環境の質向上をはかる。通信教育の長所を活かした学びやすさを高めて、内容を充実させていく。

### (2) 実践教務事業 (日本モンテッソーリ教育総合研究所 附属『子どもの家』運営)

幼児部 40名(4学齢 各10名)

小学部 20名(6学年合計)

たんぽぽクラス(1歳親子教室)

【その他】

夏期体験教室、国内外の見学者・取材などの受け入れ。

### (3) 実践研修事業 (教師養成センター 実践研修室)

通信受講生の予備軍、既卒業生の学習継続を兼ねた実践研修の場として開設。

「3～6歳コース」「0～3歳コース」「沖縄・宮城移動実践研修室」など年間合計 20 講座を開設。

※教師養成事業で、基礎的な理論内容を学べる「eラーニング入門講座」開設に連動して、

平成 30 年度実践研修室は、教具を使う分野ごとの実技講座に注力して開講予定。

### (4) AMS、モンテッソーリ・アジアとの連携について

「インターナショナルコース」開設に伴い、AMS((American Montessori Society)講師陣との協力関係作りをすすめる。

### Ⅲ. 才能開発コンテスト事業(公3)

(主な目標)

- ① 第 55 回全国児童才能開発コンテストを主催し、応募地域と応募数の拡大を図る。
- ② コンテスト協賛企業を継続して募るとともに、協賛価値の向上を図る。
- ③ 財団ホームページを活用し、審査過程や表彰式の紹介、作品が学校などで活用されやすい工夫を行い、コンテストとしての充実を図る。

#### (1) 第 55 回全国児童才能開発コンテスト

「全国児童才能開発コンテスト」は、児童の才能開発・学習意欲向上のための顕彰事業である。

第 55 回を迎える本年度も、作文・図画・科学の 3 部門で作品を募集し、それぞれ低学年の部、高学年の部の 2 点、計 6 点の文部科学大臣賞と、全体で 3,500 名余りの児童に賞状と賞品を贈呈し、広く顕彰する。

この事業の目的は、学校教育の趣旨に沿って児童に作品の創作や理科研究を奨励し、個々の児童の才能を伸ばし、「豊かな感性・情操」を養うとともに、学習意欲の向上を図ることにある。

#### 30 年度の実施要領(予定)

- ◆ 名 称 : 第 55 回全国児童才能開発コンテスト
- ◆ 主 催 : 公益財団法人 才能開発教育研究財団
- ◆ 後 援 : 文部科学省 全国都道府県教育長協議会 全国都道府県教育委員協議会  
全国連合小学校長会 公益社団法人日本 PTA 全国協議会
- ◆ 協 賛 : 株式会社学研ホールディングス、菅公学生服株式会社
- ◆ 審査委員  
＜作文部門＞ 丘 修三 岡 信子 小森 茂 矢部 美智代 文部科学省教科調査官  
＜図画部門＞ 黒井 健 田窪 恭治 水島 尚喜 小林 貴史 文部科学省教科調査官  
＜科学部門＞ 有馬 朗人 黒田 玲子 湯本 博文 文部科学省教科調査官
- ◆ 賞 : 表彰状 記念盾 副賞 参加賞 学校奨励賞

#### (2) 『オコン』の充実と告知

当コンテストは長年にわたる授賞実績を持ち、小学校の教育現場及び教育委員会からも強い支持と協力を得ている。入賞作品を掲載した「作品集」の充実と、協賛企業との連携を深めるとともに地域の美術館などでの作品展示の機会創出を行う。

財団ホームページを活用し受賞作品の紹介の仕方を工夫するとともに、審査過程をタイムリーにアップしていきたい。また、審査結果報告書を作成し、理事・監事・評議員、審査員、顧問に発信。

さらに、受賞者の成長や進路を見守るため、各 3 部門の文部科学大臣賞受賞児童に対して、「年賀状」や「入賞作品集」の提供を開始した。

## IV. 管理部門

(本部事務局活動)

管理部門としての基本的支援業務や適正な資産運用を行うことはもちろんであるが、本部事務局も各事業部門担当者と情報を共有し目標の達成に向けた支援を行う。

28年度から立ち上げた教員免許状更新講習のeラーニングは、(公 1)の中核事業として受講者の利便性を更に整備して充実した講習の提供を行う、(公 2)は、モンテッソーリ教育の会員管理システム刷新に併せ、eラーニングを活用した学び方の工夫を行う。また講座をインターナショナルコースと入門講座を新設し保護者から講師までモンテッソーリ教育に関する様々な学びの提供を行う。

財団運営に係わっていただいている先生方や法人、団体、理事、評議員の皆様のご理解、ご協力、ご支援を得るための諸活動を行い、もって事業の継続、財団の存続を図る。